マーさんたいろけんれいししち人人というとのようれ ちれてらいたかりていい あるかろいれしついていることでれないった ちいくていいかんかっとはそうれいつきりてもか かっきょうでありてからければれるでればらいちな りょういうかしきっされなしまずれいそいらし とうろうれるかけられているりとりなったっちし かけれていろけんりょうくさいへもしきていしかりかや からんなしてい 日れてからされのらでものなりからさい いうつかいろうというしてするかっしいべんない かっつきにいい カサーちにろかりろにそこしるてきないない それ人してきたかっきのかわりれやうではり いるこうえしかろんことも一日、ひろりいかいりつ いろうかれるてくろうかんちゃんていれとう るいなんけいうりいせる いっとしくとくとうかいのかれる のとういういろい こしろといからから 山及工作 34 そっこのなる (本文二一一页参照) Ti.

いってきして

かめ

はえる

るるで

カイフス

丘 帖(缺脱部分) 33 水

タル ひげった なんろんかん

ちゃれけきょうし けん

1000

	:		/	3	1 1	1	
	師走	八月	神まつり	子自			
	かくめ	あした	夏のはて	を			
	帽月	七日の夜 七日の夜	なこしの被	期日のひ		帖	
次	冬月	秋 九初秋	東	春 弥 蛙 月	録	六帖第一	例
H	説 初冬 時	長秋出の日	歳 あ初めの めの 草夏	放 な存立つ日 なかの春日	市今和歌六帖題目録	古今和歌	凡

目

次

						- 選行
大鷹狩	93	KI	班	小選	大選	55
ともし)J	批の野	冬の野	秋の野		If of
(元1~元)						IJ
そほつ	稲負鳥	かりほ	冬の田	秋の田	夏の田	日田
(八~九)		***************************************				III
		むまや	使	道	やしろ	
岡	原	例	すみかま	おのくえ	Ali	77
华	いはほ	山ひこ	山の井	山里	th m	
むさくひ	くま	25	庇	從	山鳥	
(***************************************				第二帖題目録:
······································	***************************************			帖	帖第二	古今和歌六帖第二
				かけろふ	石安	なるかみ
ちり	煙	火	氷	あられ	Ti-	सी
77	復	しつく	器	雲	夕立	しくれ
むらさめ	耐	雑の風	姐	山おろし	冬の団	数の風
夏の風	春の風	星	夕やみ	有明	夕つくよ	三田川
雑の月	冬の月	秋の月	夏の月	石の月	てる川	天の原

11

次

11	机]]([it	水	水	古今和歌	5	US 11	17 %	古 四 位	h)
次	to ta	かはつ	紐	水瓜	M.	六帖第	îñ	おむな	ナ れ れ	W	想
	I	桶	ŝij	tt		三帖	法師	N	推井	TL.	かんしんか
	池	v	鰡	刊			あま	500	むしら	故郷	
	Fis	あせき	鲴	10				おかいこ	E	ti i	
	うき	桐	鮎	\$17				車	U.4.4.9	やとり	
13	淮	夜川	米魚	io.	(時一次二)····································			# (10元~11日)	門門	かきほ	

100		かなしひ	旅	手向	かさ	別れ
						别
			7 7	2	老女	祝
			かきし	0	17	1
(t()~ t/)						祝
				雑の思	ないかしろ	ちらみす
553	涙かは	うた」ね	おもかけ	夢	片恋	恋
(日雪~140)						恋
						第四帖題目録
		***************************************		帖	帖第四	古今和歌六
1111			50	2, to	E	浮点
Ž	Ē		はまめる	千鳥	訴	島
支 i	- 美 」	有有	ままから	コスとは、	藻	なのりそ
渚	貝 1	南鱼	カル	も日かき	した	たくたは
網洛人	かかり	的關	ł M	R	うたかた	にはたつみ
-		i			ð	FI
pre						j

四

旋頭歌……

古今和歌六帖第五帖:

東五韓國目聲…

(二六三~三六)						<u>6</u>
						つと
かたみ	みの	かさ	扇	はかり	さや	刀
大	矢	弓	笛	琴	文	言の葉
ひとり	带	ひも	裳	ふすま	雑の衣	ねれきぬ
かは衣	あさ衣	すり衣	かり衣	衣うつ	秋衣	夏衣
塩焼衣	ころも	はた	手枕	枕	Ŷ	玉たすき
玉の緒	たま	櫛	もとゆひ	かみ	玉かつら	展出
				かたみ	こむよ	今はかひなし
になき思ひ	かくれつま	わかせこ	わきもこ	なき名	惜します	名を惜しむ
とゝまらす	人をといむ	来れと会はす	思ひわつらふ	思ひやす		いへとしを思ふ
人つま	くちかたむ	ちかふ	頼むる	めつらし	人をたつぬ	ちきる
あつらふ	昔ある人	昔を恋ふ	思ひ出つ	おとろかす	忘れす	忘る
人つて	文たかへ	道のたより	人をよふ	待たす	人を待つ	近くて会はす
物語り	よひのま	(9	うちきて会へる	遠道隔てたる	年隔てたる	日頃隔でたる
物隔てたる	二夜隔つ	一夜隔つ	既に起く	ふせり	二人をり	独り寝
夜独りをり	人に知らる」	人知れぬ	いはて思ふ	わきて思ふ	こと人を思ふ	あひ思はぬ
あひ思ふ	しめ	あした	初めて会へる	年へていふ	いのはしむ	知らぬ人

……(一九三~一九五)

.....(二类~一元七)

.....(一九0~一九三)

- 5 -

Ŧ.

 \Box

次

次

H

																		术	並	虫	虫	あふひ	ゆり	つはな	推	つき草	花かつみ	くたに	荻	ねな	春草	草::	第六	古今		錦		
ãp ac	一、桂烷			一、			1 1	i ii	1	,	しきみ	1	HE 4	桃)	体	(III)	ķ					D.				14.	つみ	に		ねなし草	7-		第六帖題目録:	今和歌六	箱	錦綾	П	
一、御所本古今和歌六帖	桂宮本古今和歌六帖	御所本古今和歌六帖		桂宮本古今和歌六帖	版	カさいき		it.					y	t 4	商人	ik t	しまり	***************************************	はたをりめ	蟬		かたはみ	ある	かにひ	玉かつら	わすれ草	あし	さうひ	らに	山吹	夏草		***************************************	帖第	糸		次	
				歌六帖		1 15		はなち鳥			ちかる有	5 10	0 1	t 4		A 1.	"			夏虫		みくり	1494	紫陽花	髙	しの	UL	刈萱	菊	撫子	秋草			六帖…				
第五帖部分	第五帖部分	第一帖本文卷頭	第一帖與書	第一帖本文卷頭		もす	呼子鳥	ひな鳥		14.40				さったもはな	かには核	カヘ	Æ		4	虫		b	まさきかつら	花		しのふ草	L	11.		f	草				紹			
		~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~	Tir.	义卷頭		くひな	المال	か・ひ・		けつるは	岩つ」し	概		ts			教花		螺	きりくす		蓬	ひかけ	さこく	さねかつら	ことなし草	ぬなは	查	草のから	秋萩	冬草				布			
						つはくらめ	からす	钩		かたかし	ひさき	くぬき	杉	さくろ	山桜	たかむな	紅葉			松虫		苔	山たちはな	すみれ	青つゝら	芹	ねぬなは	はちす	きちから	女郎花	した草							
						j	it :	b. 9		つまし	桑	格	むろ	梨	には桜	梅	样	***************************************		鈴虫		いちし	すけ	わらひ	あさかほ	なき	あさ」	杜若	りうたん	するき	にこ草							
						にことり	1 1	CHAIR CHAIR	יייייייייייייייייייייייייייייייייייייי	さねき	はたつもり	Hú 4	旗	山梨	ひさくら	紅梅	まゆみ	(三〇六~三元)		ひくらし		しは	32	ゑく	浅茅	たて	うき草	34	しをに	しのするき	雑の草	(110)11~0¢(1)	(日六九~日七0)				ተ	

•

- 6 -

州

例

本書の題字は、慶長勅版「日本書紀」および「職原抄」より集字した。 図書寮叢刊は、書陵部蔵書群のうち、歴史・国文その他の資料的価値の高いものを逐次翻刻出版するものである。

本書は、平安前期の類題和歌集である「古合和歌六帖」を、書陵部蔵本により翻刻するものである。

この翻刻は、上巻「本文篇」と下巻「索引・校異篇」の二分冊とした。

本書は本文篇として、書陵部蔵桂宮本(六冊、五一○・三四)を底本とし、同御所本(六冊、五○六・一三)

、文字は原則として当用漢字・通行漢字を用いた。

により校合した。

校合本による校異は、原則として6ポに組み、「 のちをは、
校合本には、「ヲイ」という底本校異がないことを示す。 」を附した。

校合本の本文が、「と思へは」であることを示す。従つて、「思へはイ」という校異は、「ナシ」で あるが、こうした場合は煩瑣になるので記さなかつた。

例 底本 かやはら) 校合本 松の()

R

(9)

校合本 つれの場合も、底本のままとし、校異部分の「イ」の有無については、扱わなかつた。

-

一、底本中、片仮名の細字で行間に補入されている歌、平仮名や片仮名で補入されている作者名等は、8ポ・7ポ の活字を使用して順本の体裁に近づけた。

一、各歌の歌頭に注した洋数字は、 ある歌は、その前にある歌の番号に含め、ダッシュ記号を附し、歌全体に「 翻刻底本の歌順による、 各帖毎の通し番号である。翻刻底本になく、 一を附した。 校合本に

例 (第三帖) 33なかれても-

また、 各歌の末に注した和数字は、国歌大観所載「古今和歌六帖」の歌番号(三〇八七九~三五三三五)である33「トシフレトー」校合本のみに存在。

から 表記上の便宜により、共通の三万台の表記を省き、下四桁の数字のみ記した。

(第一帖)

1年のうちに -ことしとやいはん 公元

国歌大観番号では三○八七九であることを示す。

一、脱字、誤記などが推定される場合などには、 ()を附して編者の意見を注した。

和

歌

六

帖

本

文